

令和元年9月定例会・一般質問

【常滑市民病院の経営状況及び半田市立半田病院との経営統合について】

◆大川秀徳

現常滑市民病院は、100人会議をはじめとする市民、市議会、市長はじめ市職員、大学関係の支援と、それに応えた病院職員の頑張りにより、平成27年5月に飛香台に新築移転されました。常滑市病院事業改革プランにも記載されておりますとおり、常滑市民病院は、市内唯一の入院施設を持つ病院で、市民にはなくてはならない存在だと思います。地域医療の確保と住民福祉向上のため、公的医療機関でなければ対応することが困難な多くの不採算医療を担うなど、今後も市民の命と健康を守る地域医療の拠点病院としての役割を果たす社会的使命があると思います。

国が作成した新公立病院改革ガイドラインや県が策定した愛知県地域医療構想では、急速に少子高齢化が進行する中、令和7年、2025年、いわゆる団塊の世代の方々が75歳以上となり、医療や介護を必要とする高齢者が大幅に増加し、医療ニーズが大きく変化することが見込まれており、地域にふさわしいバランスのとれた病床の機能の分化と連携を進め、効率的で質の高い医療提供体制を構築していくことがますます必要とされていると書かれております。

常滑市民病院は、新築移転から4年、さまざまな背景が重なり、半田市立半田病院が常滑市民病院と近接する半田運動公園の東側へ2025年5月に新築移転することが発表されました。時を同じくして、常滑市民病院の経営状況が悪化してきました。

そこで、今後の常滑市民病院について、以下3点をお伺いいたします。

質問1、常滑市民病院の経営状況が今年度特に悪化してきたが、その要因及び対策は何でしょうか。

質問2、平成30年度末の資金残高は11億円ほどであるが、今後どのように推移していくでしょうか。

質問3、統合に向けた半田市立半田病院との協議の進捗状況と今後の展開はどうでしょうか。

◎病院事務局長

1点目のご質問、常滑市民病院の経営状況の悪化要因及び対策についてお答えします。

常滑市民病院の経営状況は、今年度、特に4月から6月にかけて悪化しており、医療収入の合計である医業収益を前年度からの増減率で見ますと、4月はマイナス5%、5月はマイナス8%、6月はマイナス4%となっています。この結果、医業損益の金額は、4月は1億1,700万円の赤字、5月は1億900万円の赤字、6月は1億100万円の赤字となっております。この最大の要因は、4月からの常勤医師の減少による入院患者数の大幅な減少です。具体的には、整形外科の医師の開業に伴う減少と脳外科医師の民間病院への転職に伴う減少に対して、後任補充ができなかったためであります。これに対して、医師確保に努めるとともに、他の診療科の医師をはじめとして職員一丸となって、患者数の減少を補うさまざまな経営改善努力を行ってきております。

具体的な対策としましては、まず医師同士の連携を強化し、消化器内科及び外科などの急性期入院患者の増加を目指すとともに、急性期後の入院患者の地域包括ケア病棟及び回復期リハビリテーション病棟への受け入れ強化を行ってきました。この結果、入院患者数の前年度増減率を見ますと、4月はマイナス16%、5月はマイナス15%、6月はマイナス

13%となり、7月はマイナス5%まで改善しております。また、入院患者の単価向上を図る活動を積極的に行ってきた結果、4月以降、毎月前年度を上回る単価となり、7月には入院患者数減少を補い、前年より医業収益が上回る結果となりました。

なお、経営改善の過程において、半田市立半田病院との連携強化を実現しており、これは統合に向けたよい影響であると考えております。例えば、4月から半田市立半田病院の整形外科の常勤医師1名が週4日間、常滑市民病院にいられて、終日外来、簡単な手術及び入院の治療に当たられております。また、脳外科の常勤医師が交代で週1日、外来の応援に来ていただいております。このこともあり、地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の患者の受け入れも増加しております。

一方、常滑市民病院から半田市立半田病院に対して、4月からリハビリテーション科の技師2名が、さらに8月から看護師4名が応援に行っております。常滑市民病院としては、今後も医師の退職及び採用は続きますが、引き続き入院患者数の増加及び入院単価の向上を中心として、医業収益の改善を図り、一方、医業費用の圧縮に努め、経営状況の改善を行っていききたいと考えております。

次の2点目に、現金預金残高の今後の推移についてお答えします。

病院は月の変動が激しい事業ですし、現在、急速に経営が回復している途中ですので、7月までの実績で今後の推移を見ることは大変難しい状況ですが、年度末には、予算で見込んでいる金額以上の現金預金残高を確保していく努力をしていきたいと考えております。

次に、3点目のご質問、半田市立半田病院との協議の進捗状況と今後の展開についてお答えします。

半田市立半田病院との協議については、今年度に入り、5月20日に半田市立半田病院・常滑市民病院統合会議設置に関する協定書を両市で締結し、それに従い、6月16日日曜日に第1回の統合会議が開催されました。この中では、昨年度の協議会の内容を振り返るとともに、現在の両病院の常勤医師の配置状況を報告し、診療・経営統合を検討するに当たって必要な3つの視点、患者をはじめとする地域医療からの視点、医療従事者からの視点、病院経営からの視点を提案し、統合後の両病院のコンセプトを確認するとともに、診療の流れを例示いたしました。

また、会議の席上では、常滑市民への説明が十分に行われていないためか、統合により常滑市民病院がなくなるとの認識を持つ市民がいるとの意見があり、さらに今後診療統合や経営統合の検討を進めていく中で、両市が半田市とか常滑市とかと主張し合って引っ張り合いをしていくのではなく、両市で新しい知多半島の医療センターをつくっていくのだとの認識に立つことが必要であり、経営統合母体の仮称をつけたほうがよいとの提案がありました。

今年度は、新半田病院の基本構想を作成し、総務省のヒアリングを受ける必要があるために、それに向けて必要な課題を検討しているところですが、2つの病院の診療分担などを検討する診療統合については、診療統合部会を設置し、各診療科の医師との意見交換を進め、8月9日金曜日に第1回診療統合部会を開催し、病院のコンセプトと診療分担の大筋を確認しております。

一方、経営統合の時期、形態、その他行政面での諸課題については、経営統合部会を設置し、7月12日金曜日に第1回、8月22日木曜日に第2回を開催しております。この2つの部会の検討結果を踏まえて、統合会議に向けた調整を行うため統合調整会議を設置し、8月29日木曜日に第1回を開催しております。今後は9月15日日曜日に第2回統合会議を開催する予定であり、その後10月21日から半田市、常滑市両市において、それぞれ市民に向

けた説明会を予定しております。